

2022.8.18



地域日本語支援ニュース こだま 第 422 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～

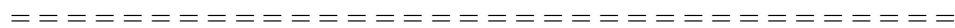


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■AJALT の教材 近刊のご案内■

コロナ禍のもとで長らく入国をとどめられていた技能実習生もようやく、この春より来日できるようになりました。当協会では、技能実習や特定技能の在留資格で働く外国人のために、『あたらしいじっせんにほんご』シリーズの開発を続けています。今回は、近刊の活動集をご紹介します。

『あたらしいじっせんにほんご 2 —働く外国人学習者のために—楽しい活動集』

本活動集は、技能実習や特定技能の在留資格で日本の現場で働く外国人が、日本語の実践的な力を身につけることを主眼としています。すでに広くご活用いただいている本シリーズのステップアップ編『あたらしいじっせんにほんご 2』の副教材にあたります。

働く外国人学習者として、金属加工業現場からマレーシアのワンさん、中国のチンさん、食品製造現場からインドネシアのアリさん、ミャンマーのマイさ

ん、レストランからネパールのタパさん、ベトナムのフエさんが登場します。それぞれ、日本人の主任、リーダーや先輩から技術や仕事を学び、また日々の生活を送っています。全 10 課を通して、働く外国人が就労現場で遭遇する場面や、日々の暮らしで必要となる日本語力が養われる内容となっています。

本書には、次のような特長があります。

各課では、まず「活動の前に」のページで、徹底した音声トレーニングを行います。このページには「口ならし 1」と「口ならし 2」があり、1 では、その課の練習項目の核となる動詞や形容詞の活用を、2 では、運用表現の鍵となる文型を、声に出すことで体得するのがねらいです。VT 法（ベルボ・トナル法）※1 を活用し、頭ではなく体で、口をついて出てくるまで練習しておくことで、就労現場、日常生活での運用がスムーズになります。

そして、「さあ、楽しく活動しましょう」に移ります。さまざまな場面、例えば、会社で自己紹介をする、自分の毎日について話す、就労現場で指示を聞き取り確認して作業をする、標識や規則を理解して行動する、道を尋ねたり教えたりする、病院で手続きや受診をしたりする、などを取り上げています。場面ごとに、目的を達するのに必要な文型・表現が使いこなせるように練習を行います。学習者が臨場感を持って練習できるように、さまざまな種類の活動を用意しています。TPR 教授法※2 にもとづく指示を聞いて実際に動く活動はもとより、朝礼での報告や業務日報等、現場で必要な日本語力が養われるよう、「聞く・話す」「読む・書く」をバランスよく取り入れました。さらに活動を通して、日本の習慣や災害時の知識などが身につくように、社会、文化、生活情報も織り込んであります。

巻末には、本課に出てくる動詞・形容詞・副詞や表現が持つ用法の広がりや、イラストとともに示しています。例えば、「ぐあい」という一語で、「具合が悪い」と自身の体調を伝えることも、「機械の具合がいい」と機械の動作状態を表すことも、また、「こんな具合に」と言いながら「やり方」を説明することもできます。用例を挙げた上で、総ルビの読み物で解説しており、ある程度進んだ学習者には読解練習ともなります。少ない語彙でもさまざまに応用が利くのだという気づきが、学習者の意欲を高めます。また、日本語支援者にとってもヒントとなるページです。

※1 東欧の言語学者グベリナを中心に生み出された学習の方法を参照しています。人は言葉を聞き取って意味を理解するとき、一つひとつの音ではなく、リズムやイントネーションなどのまとまりとして受け取っていますが、それらを身体を通して身につけることを大切にしています。

※2 アメリカの心理学者アッシャーが、初めて学ぶ言語への緊張やプレッシャーを感じないで、学習できるように考えた方法です。ふつうのスピードで日本語の指示を聞き、理解してその通りに動けるように練習します。学習者に発話を強制しないで、自然に言いたくなるのを待ちます。

.....

AJALT では、上記シリーズの他、『おぼえてたのしい生活漢字かるた』
『かんじだいすき』シリーズなど、地域で生活する方々や日本の学校で学ぶ子どもたちに役立つ教材の開発と出版を行っています。

(AJALT 教材サイトの URL) <https://www.ajalt.org/textbook/>
